

●掲載データ一覧

環境関連データ	図表1	国内企業活動におけるエネルギー使用量および売上高原単位の推移
	図表2	スコープ1,2の温室効果ガス排出量の削減目標と実績
	図表3	スコープ別の温室効果ガス排出量の目標と実績(2025年度)
	図表4	日本国内全体の環境負荷(2025年度)
	図表5	日本国内の環境負荷 事業工程別(2025年度)
	図表6	海外製造子会社の環境負荷(2025年度)
	図表7	海外販売子会社の環境負荷(2025年度)
	図表8	使用済み製品と消耗品の回収量
	図表9	使用済み製品の再資源化率
	図表10	産業廃棄物および一般廃棄物の特殊最終処分率の推移
	図表11	水の使用量の推移
	図表12	PRTR指定化学物質の排出量および移動量の内訳
	図表13	PRTR指定化学物質総使用量と排出量および移動量の合計の推移
	図表14	PRTR指定化学物質排出量および移動量
	図表15	国内全体の委託貨物輸送量内訳とモーダルシフト率の推移
	図表16	委託貨物輸送によるCO ₂ 排出量の内訳
	図表17	リターナブルラック使用率と使い捨て梱包材削減量の推移
	図表18	環境教育実施内容と参加人数(2025年度)
環境会計	図表19	2025年度の集計結果
	図表20	コスト(投資額+費用額)の推移
	図表21	経済効果(収益+費用節減)の推移
	図表22	環境会計の推移(製品の環境配慮設計などの開発費用を除いた比較)
主要事業所の環境データ (サイトデータ)	図表23	サイトデータ(筑波事業所)
	図表24	サイトデータ(霞ヶ浦事業所)
	図表25	サイトデータ(宇部事業所)
	図表26	サイトデータ(理想開発センター)
社会関連データ	図表27	採用実績(国内)(新卒/中途)
	図表28	採用実績(国内)(男性/女性)
	図表29	労働災害発生件数および度数率・強度率
	図表30	延実労働時間と労働損失日数

凡例について:

注…個別箇所の増減を説明

※…図表全体に関わる注記

*…言葉の定義

環境関連データ

2030 年度 環境取り組みの数値目標の進捗

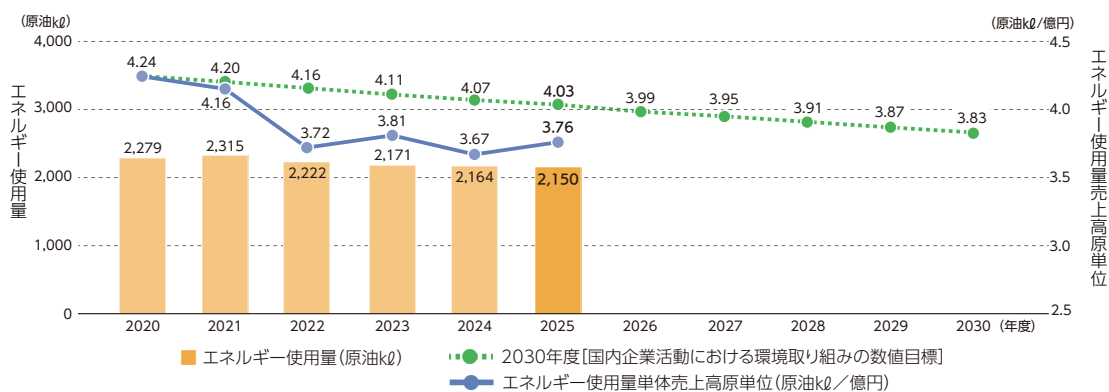
企業の成長と温暖化対策の両立をめざす産業界を挙げての取り組みである「電機・電子業界 カーボンニュートラル行動計画」を踏まえ、2030 年度「環境取り組みの数値目標」の達成に向けて単年度ごとに数値目標を設定し、環境負荷低減活動の進捗を管理しています。

また、企業に求められる気候変動対応に貢献するため、温室効果ガスの削減を推進します。

国内企業活動における「省エネ推進」

国内全体で 2020 年度を基準として、2030 年度に 9.56%改善する。
 (2030 年度においてエネルギー使用量単体売上高原単位を 3.83 原油kℓ／億円以下にする。)
 エネルギー原単位改善率を年平均 1 %改善する。

図表 1 国内企業活動におけるエネルギー使用量および売上高原単位の推移

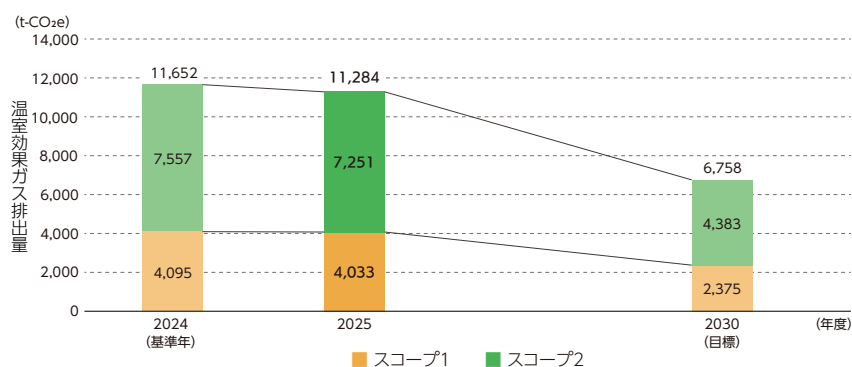


温室効果ガス排出量の目標と実績

当社グループ全体で Scope1+2*1,2:2024 年度を基準年として、2030 年度までに 42% 削減

- *1 Scope1: 自社の直接排出する温室効果ガス (ガソリン、軽油、ガス燃料など)
 *2 Scope2: 自社の間接排出する温室効果ガス (電気など)

図表 2 スコープ 1,2 の温室効果ガス排出量の削減目標と実績



集計範囲:当社、ならびに当社グループ会社24社

●温室効果ガス排出量の算定について

算定方法:GHGプロトコル準拠

排出量係数:環境省「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」、「電気事業者別排出係数一覧」、「IDEA Ver3.5」等を使用

環境関連データ

図表3 スcope別の温室効果ガス排出量の目標と実績(2025年度)

[スcope別の温室効果ガス排出量]		2024年度 (基準年)	2025年度 (目標)	2025年度 (実績)	目標比
スcope1	排出量(t-CO ₂ e)	4,095	4,054	4,033	99%
	削減率	—	1.0%	1.5%	
スcope2	排出量(t-CO ₂ e)	7,557	7,481	7,251	97%
	削減率	—	1.0%	4.0%	
スcope1+2	排出量(t-CO ₂ e)	11,652	11,536	11,284	98%
	削減率	—	—	3.2%	

POINT

2025年度のScope1、2合計の排出実績は11,284 t-CO₂eとなり、全体の目標(11,536 t-CO₂e)を達成しました(目標比98%)。Scope2はRISO INDUSTRY (THAILAND) CO., LTD.における太陽光発電設備の稼働などにより削減が進みました(目標比97%)。
※2024年度より温室効果ガス排出量の算定方法を変更しておりますが、目標削減割合は昨年度報告と同様の設定としております。

図表4 日本国内全体の環境負荷(2025年度)

INPUT					OUTPUT				
		2024年度	2025年度	前年度比			2024年度	2025年度	前年度比
日本国内の事業活動全体におけるエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量、資源投入量、廃棄物排出量などを表します。									
エネルギーの使用量	GJ/年	117,522	115,544	98	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	7,004	6,822	97
電力	MWh	7,681	7,559	98	電力	t-CO ₂ /年	4,263	4,195	98
A重油	kℓ	31	33	105	A重油	t-CO ₂ /年	85	90	105
LPG	t	89	94	105	LPG	t-CO ₂ /年	268	281	105
灯油	kℓ	0	0	—	灯油	t-CO ₂ /年	0	0	—
都市ガス	千m ³	53	53	100	都市ガス	t-CO ₂ /年	118	118	100
ガソリン	kℓ	385	363	94	ガソリン	t-CO ₂ /年	911	859	94
軽油	kℓ	1	0	22	軽油	t-CO ₂ /年	1	0	22
委託貨物輸送量*6	万t・km	707	683	97	委託貨物輸送量*6	t-CO ₂ /年	1,357	1,278	94
水の使用量	m ³	21,901	20,316	93	排水量	m ³	20,152	18,614	92
					蒸気放散・散水その他	m ³	0	0	—
製品の部品・材料	t	4,220	4,060	96	製品*5	t	6,062	5,844	96
使用済み製品回収量	t	1,859	1,668	90	使用済み製品・廃棄物処理量*1	t	2,611	2,377	91
					再生投入量*7	t	269	247	92
					再資源化量*2	t	2,312	2,103	91
					その他*3	t	6	10	175
					埋立最終処分量*4	t	23	17	71

集計範囲:P.4 図表5「日本国内の環境負荷 事業工程別(2025年度)」のINPUT/OUTPUTを集計しています。

集計対象:日本国内 本社・営業、開発・設計、生産でのエネルギー使用量とそれに伴うCO₂排出量、水使用量と排水量、廃棄物排出量。生産での物質投入量、日本国内の物流・輸送、社有車の運行による燃料使用量、委託貨物輸送量(物流部所管以外の委託貨物輸送量も含む)とそれに伴うCO₂排出量。回収・リユース・リサイクルでの使用済み製品回収量と廃棄物排出量。

- *1 廃棄物排出量…当社では、有価物や再資源化されるもの、リユースされるものを含めて工程から不要物として排出されるもの全てを廃棄物としています。
- *2 再資源化量…再資源化された量および熟を得る利用(サーマルリサイクル)量で有価物を含めた合計量。工程に再投入される量は除く。
- *3 廃棄物排出量内訳のその他…再資源化処理や焼却処分でのガスとしての放出量など。
- *4 埋立最終処分量…埋立処分される量。再資源化処理などの中間処理で発生する残渣、焼却灰で埋立処理される量を含む。
- *5 製品…高速カラープリンター「オルフィス」、デジタル印刷機「リソグラフ」およびそれらのインク、マスターのサプライ品。
- *6 委託貨物輸送量…輸送業者に委託する製商品、部品・パーツの配送・調達、使用済み製品の回収、廃棄物の搬送などの輸送量。
- *7 再生投入量…再資源化処理されたもののうち原材料として工程に再投入される量。

●CO₂排出量の算定について

電力:日本国内については通年にわたって0.555kg-CO₂/kWh、海外については国ごとにIEAの統計データの換算値を適用。
A重油:2.71kg-CO₂/ℓ、LPG:3.00kg-CO₂/kg、ガソリン:2.32kg-CO₂/ℓ 委託貨物輸送量:省エネ法の算定基準による。

環境関連データ

図表5 日本国内の環境負荷 事業工程別(2025年度)

事業工程	INPUT				OUTPUT					
		2024年度	2025年度	前年度比		2024年度	2025年度	前年度比		
本社・営業 【集計範囲】 理想科学工業(株)および 理想沖縄(株)の本社、国内 営業拠点(廃棄物は本社 のみ) (有)クボタオフィスマシ ン、理想テクノロジー(株) を除く。	本社・営業部門の事業所活動におけるエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	17,634	17,184	97	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	969	944	97
	昼間電力	MWh	1,547	1,499	97	昼間電力	t-CO ₂ /年	859	832	97
	LPG	t	2	3	113	LPG	t-CO ₂ /年	7	8	113
	灯油	kℓ	0	0	—	灯油	t-CO ₂ /年	0	0	—
	都市ガス	千m ³	46	47	101	都市ガス	t-CO ₂ /年	103	104	101
	水の使用量	m ³	1,318	1,248	95	排水量	m ³	1,318	1,248	95
					廃棄物排出量*1	t	10	10	93	
					再資源化量*2	t	10	9	93	
					その他*3	t	0	0	—	
				埋立最終処分量*4	t	0	0	97		
開発・設計 【集計範囲】 理想開発センター 理想開発センターⅡ	製品開発におけるエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	22,644	23,350	103	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	1,283	1,298	101
	昼間電力	MWh	1,646	2,313	141	昼間電力	t-CO ₂ /年	913	1,284	141
	夜間電力	MWh	640	0	0	夜間電力	t-CO ₂ /年	355	0	0
	LPG	t	0	0	—	LPG	t-CO ₂ /年	0	0	—
	都市ガス	千m ³	7	6	95	都市ガス	t-CO ₂ /年	15	14	95
	水の使用量	m ³	7,655	6,721	88	排水量	m ³	7,655	6,721	88
					廃棄物排出量*1	t	125	106	85	
					再資源化量*2	t	118	97	82	
					その他*3	t	5	8	170	
				埋立最終処分量*4	t	1.0	0.9	99		
生産 【集計範囲】 筑波事業所 宇部事業所 霞ヶ浦事業所	生産した主要製品*5への材料投入量とエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量、廃棄物排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	43,796	43,514	99	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	2,482	2,442	98
	昼間電力	MWh	3,528	3,428	97	昼間電力	t-CO ₂ /年	1,958	1,903	97
	夜間電力	MWh	321	319	99	夜間電力	t-CO ₂ /年	178	177	99
	A重油	kℓ	31	33	105	A重油	t-CO ₂ /年	85	90	105
	LPG	t	87	91	105	LPG	t-CO ₂ /年	261	273	105
	灯油	kℓ	0	0	—	灯油	t-CO ₂ /年	0	0	—
	水の使用量	m ³	12,928	12,347	96	排水量	m ³	11,179	10,645	95
	製品の部品・材料	t	4,220	4,060	96	蒸気放散・散水その他	m ³	0	0	—
	金属	t	738	653	88	製品*5	t	6,062	5,844	96
	プラスチック	t	744	735	99					
	ガラス	t	0	0	88					
	紙	t	1,160	1,143	99					
	その他	t	1,578	1,528	97					
	PRTR物質取扱量	t	3.5	3.1	89	PRTR物質の排出量・移動量合計	kg	0.0	43.2	—
					大気への排出量	kg	0	0	—	
					水域への排出量	kg	0	0	—	
					土壌への排出量	kg	0	0	—	
					廃棄物への移動量	kg	0.0	43.2	—	
					廃棄物排出量*1	t	617	593	96	
				再資源化量*2	t	610	590	97		
				その他*3	t	1	2	200		
				埋立最終処分量*4	t	6	1	16		
販売・物流・輸送 【集計範囲】 日本国内の物流・輸送、 社有車の運行	お客様への販売活動や保守サービス活動など社有車の燃料使用量とCO ₂ 排出量、製品の配送、使用済み製品の回収運搬など委託貨物輸送に関わるエネルギー使用量とCO ₂ 排出量を算出しています。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	33,448	31,496	94	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	2,269	2,137	94
	ガソリン	kℓ	385	363	94	ガソリン	t-CO ₂ /年	911	859	94
	軽油	kℓ	1	0	22	軽油	t-CO ₂ /年	1	0	22
	委託貨物輸送量*6	万t・km	707	683	97	委託貨物輸送量*6	t-CO ₂ /年	1,357	1,278	94
回収・リユース・ リサイクル 【集計範囲】 日本国内の使用済み製品	使用済みとなった製品の回収量およびリユース、リサイクル量を表します。 回収した製品の有効利用を進めていますが、再資源化できない部品などの一部埋立処分も行っています。									
	使用済み製品回収量	t	1,859	1,668	90	使用済み製品処理量	t	1,859	1,668	90
	デジタル印刷機等	t	1,649	1,469	89	再生投入量*7	t	269	247	92
	インクボトル	t	183	172	94	再資源化量*2	t	1,574	1,407	89
	インクカートリッジ	t	27	27	100	その他*3	t	0	0	—
					埋立最終処分量*4	t	16	14	90	

*1 廃棄物排出量…当社では、有価物や再資源化されるもの、リユースされるものを含めて工程から不要物として排出されるもの全てを廃棄物としています。

*2 再資源化量…再資源化された量および熱を得る利用(サーマルリサイクル)量で有価物を含めた合計量。工程に再投入される量は除く。

*3 廃棄物排出量内訳のその他…再資源化処理や焼却処分でのガスとしての放出量など。

*4 埋立最終処分量…埋立処分される量。再資源化処理などの中間処理で発生する残渣、焼却灰で埋立処理される量を含む。

*5 製品…高速カラープリンター「オルフィス」、デジタル印刷機「リソグラフ」およびそれらのインク、マスターのサプライ品。

*6 委託貨物輸送量…輸送業者に委託する製商品、部品・パーツの配送・調達、使用済み製品の回収、廃棄物の搬送などの輸送量。

*7 再生投入量…再資源化処理されたもののうち原材料として工程に再投入される量。

環境関連データ

図表6 海外製造子会社の環境負荷(2025年度)

対象	INPUT				OUTPUT					
		2024年度	2025年度	前年度比		2024年度	2025年度	前年度比		
海外製造子会社	海外製造子会社での材料投入量とエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量、廃棄物排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量	GJ/年	12,349	8,084	65	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	866	620	72
	電力	MWh	1,164	753	65	電力	t-CO ₂ /年	817	582	71
	LPG	t	3	3	101	LPG	t-CO ₂ /年	10	10	101
	ガソリン	kℓ	12	7	56	ガソリン	t-CO ₂ /年	29	17	59
	軽油	kℓ	4	4	106	軽油	t-CO ₂ /年	10	11	106
	水の使用量	m ³	14,982	13,876	93	排水量	m ³	11,451	10,536	92
	製品の部品・材料	t	3,263	2,959	91	蒸気放散・散水その他	m ³	2,834	2,640	93
	金属	t	1,666	1,467	88	製品*5	t	3,961	3,659	92
	プラスチック	t	488	451	92					
	ガラス	t	0	0	84					
	紙	t	474	452	95					
	その他	t	636	589	93					
						廃棄物排出量*1	t	162	139	86
						再生投入量*7	t	0	0	—
						再資源化量*2	t	136	113	83
						その他*3	t	12.1	11.3	93
						埋立最終処分量*4	t	14.4	15	104

図表7 海外販売子会社の環境負荷(2025年度)

対象	INPUT				OUTPUT					
		2024年度	2025年度	前年度比		2024年度	2025年度	前年度比		
海外販売子会社 全体	海外販売子会社の本社・営業拠点におけるエネルギー使用量およびCO ₂ 排出量などを表します。									
	エネルギーの使用量原単位	GJ/人*9	53.1	58.4	110	CO ₂ 排出量原単位	t-CO ₂ /人*9	3.45	3.85	112
	エネルギーの使用量	GJ/年	35,709	41,850	117	CO ₂ 排出量	t-CO ₂ /年	2,320	2,760	119
	電力	MWh	1,096	1,153	105	電力	t-CO ₂ /年	663	725	109
	天然ガス	m ³	14,402	18,128	126	天然ガス	t-CO ₂ /年	30	38	127
	ガソリン	kℓ	558	551	99	ガソリン	t-CO ₂ /年	1,296	1,278	99
	軽油	kℓ	128	279	218	軽油	t-CO ₂ /年	331	719	217
	水の使用量	m ³	730	489	67	排水量	m ³	730	489	67

※RISO, INC. RISO FRANCE S.A. RISO (Deutschland) GmbH RISO (U.K.) LTD. RISO IBERICA, S.A. RISOGRAFIA ITALIA S.R.L. RISO AFRICA (PTY) LTD. RISO KOREA LTD. RISO HONG KONG LTD. RISO (Thailand) CO., LTD. RISO INDIA PRIVATE LTD. 理想(中国)科学工業有限公司、RISO LATIN AMERICA, INC. RISO EURASIA LLC, RISO TURKEY BASKI COZUMLERI A.S

*1 廃棄物排出量…当社では、有価物や再資源化されるもの、リユースされるものを含めて工程から不要物として排出されるもの全てを廃棄物としています。

*2 再資源化量…再資源化された量および熱を得る利用(サーマルリサイクル)量で有価物を含めた合計量。工程に再投入される量は除く。

*3 廃棄物排出量内訳のその他…再資源化処理や焼却処分でのガスとしての放出量など。

*4 埋立最終処分量…埋立処分される量。再資源化処理などの中間処理で発生する残渣、焼却灰で埋立処理される量を含む。

*5 製品…高速カラープリンター「オルフィス」、デジタル印刷機「リソグラフ」およびそれらのインク、マスターのサプライ品。

*6 委託貨物輸送量…輸送業者に委託する製商品、部品・パーツの配送・調達、使用済み製品の回収、廃棄物の搬送などの輸送量。

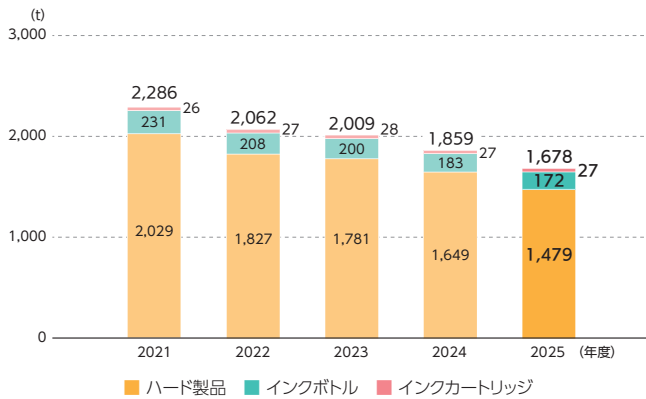
*7 再生投入量…再資源化処理されたもののうち原材料として工程に再投入される量です。

*8 海外販売子会社の環境負荷の把握は本社が主で支店等の営業拠点のデータ収集はまだ一部です。2025年度事業所・拠点在籍人員比からのデータ補足率は58.4%。

*9 海外販売子会社については、事業所の移動、人員の増減、調査の可否など変動が大きいため、調査を実施した事業所に所属する従業員の総数を分母として原単位を求め、効率の推移を表しました。

環境関連データ

図表8 使用済み製品と消耗品の回収量

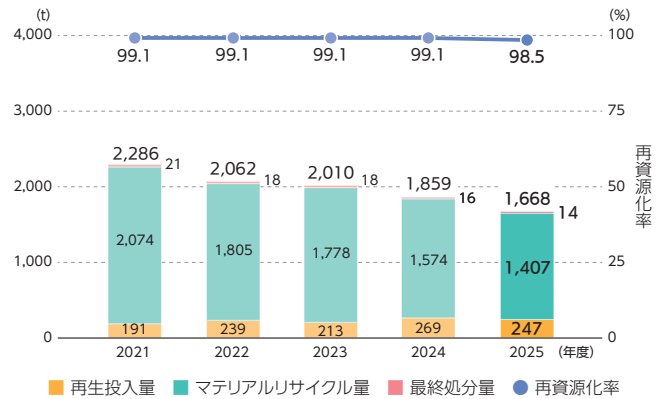


集計範囲:日本国内の使用済み製品を対象に集計しています。ただし、デジタル印刷機のリユースとしてのレンタル機の返却・回収を除いています。

POINT

当社は「使用済み製品は廃棄物ではなく、貴重な資源である」という考えのもと、使用済みハード製品・消耗品の回収・リサイクルを積極的に進めています。海外でも、現地の法律や社会的要請を踏まえ、使用済み製品の回収・再資源化を進めています。

図表9 使用済み製品の再資源化率

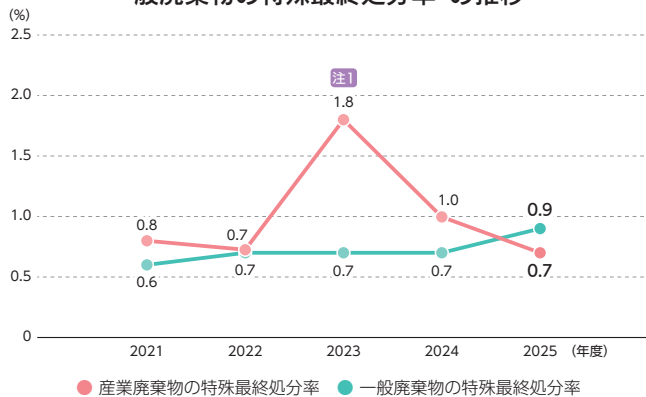


集計範囲:日本国内の使用済み製品を対象に集計しています。ただし、デジタル印刷機のリユースとしてのレンタル機の返却・回収を除いています。

POINT

使用済み製品をリサイクル製品として再生投入するとともに、リユースできない部品・パーツの再資源化を継続維持しています。

図表10 産業廃棄物および一般廃棄物の特殊最終処分率*の推移



集計範囲:筑波、宇部、霞ヶ浦、開発本部の各事業所から排出される産業廃棄物量、一般廃棄物量(有価物、再資源化物としての排出量を含む)。国内全ての使用済み製品の回収量と再資源化量、ほかの処理内訳量(ただし、レンタル機の戻り・返品、手を加えないレンタル機の別の貸出先での再使用は除く)

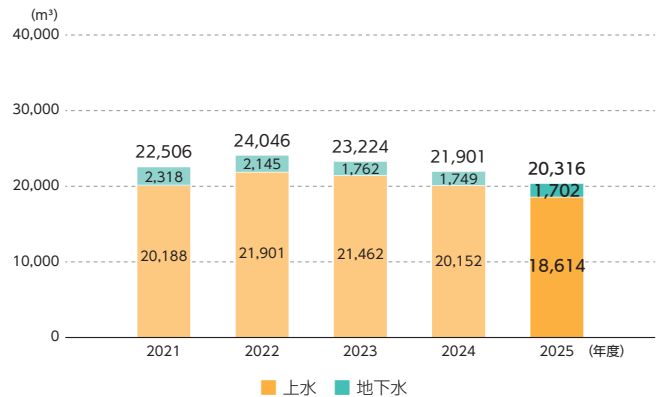
*特殊最終処分率…当社では、単純焼却量+再資源化処理で埋立処分される量(残渣・焼却灰)+直接埋立処分量を特殊最終処分量と定義し、特殊最終処分量の廃棄物排出量(有価物、再資源化物を含む)に占める割合(%)を特殊最終処分率としています。単純焼却については資源を有効に活用していないものと考え、投入量全てを埋立処分量とみなしています。

注1 設備の除却を行ったためです。

POINT

産業廃棄物および一般廃棄物の最終処分率が現在の水準を超えないように維持管理しています。

図表11 水の使用量の推移



集計範囲:日本国内の水の使用量を対象に集計しています。

POINT

生産事業所で使用する水は、その約1割が原材料およびボイラー・蒸気の原水で、残りの約9割が主にトイレや食堂などで使用する生活用水です。これらは、公共水域または下水へ排出しています。
2025年度の使用量は前年度より約1,585m³(約7%)減少しました。

環境関連データ

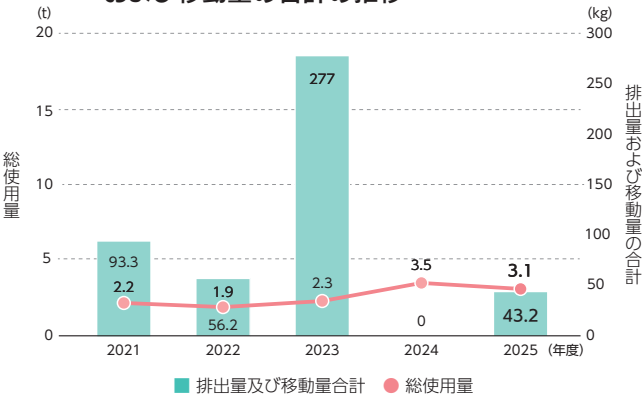
図表12 PRTR指定化学物質の排出量および移動量の内訳

(単位:kg)

	総使用量		排出・移動量小計		大気排出量		水域排出量		土壌排出量		廃棄物移動量	
	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度
1-メチル-2-ピロリドン	7.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2,6-ジ-ターシャリ-ブチル-4-クレゾール	1.6	1.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2-アミノエタノール	-	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
BHT	-	35.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
N,N-ジメチルホルムアミド	-	6.0	-	6.0	-	-	-	-	-	-	-	6.0
N-メチル-2-ピロリドン	-	17.0	-	17.0	-	-	-	-	-	-	-	17.0
アクリル酸2-エチルヘキシル	44.6	14.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キシレン	-	1.2	-	1.2	-	-	-	-	-	-	-	1.2
グリホサートイソプロピルアミン塩	8.2	8.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コバルト及びその化合物	18.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ジエタノールアミン	138.2	98.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ジエチレングリコールモノブチルエーテル	19.1	19.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シクロヘキサン	27.4	24.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ジベンジルエーテル	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ターシャリ-ブチル=2-エチルペルオキシヘキサノート	614.9	553.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フタル酸ジノルマルブチル	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フタロシアニン銅化合物	826.5	819.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル	55.4	17.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メタクリル酸	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	1.0
メタクリル酸2,3-エポキシプロピル	1,537.5	1,374.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メタクリル酸メチル	0.5	17.5	-	17.5	-	-	-	-	-	-	-	17.5
メチルイソブチルケトン	6.5	0.5	-	0.5	-	-	-	-	-	-	-	0.5
モリブデン及びその化合物	117.1	117.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	3,498.3	3,128.9	0.0	43.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	43.2

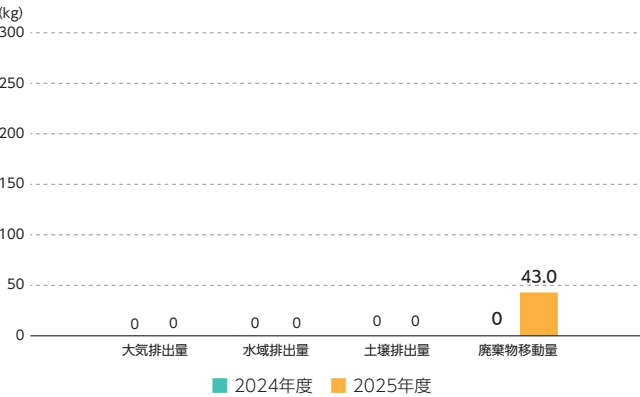
集計範囲:筑波事業所、宇部事業所、霞ヶ浦事業所、理想開発センター
※環境側面調査の結果から年間取扱量が1kg以上の物質について排出量・移動量を集計しています。

図表13 PRTR指定化学物質総使用量と排出量および移動量の合計の推移



集計範囲:筑波事業所、宇部事業所、霞ヶ浦事業所、理想開発センター
※環境側面調査の結果から年間取扱量が1kg以上の物質について排出量・移動量を集計しています。

図表14 PRTR指定化学物質排出量および移動量



集計範囲:筑波事業所、宇部事業所、霞ヶ浦事業所、理想開発センター
※環境側面調査の結果から年間取扱量が1kg以上の物質について排出量・移動量を集計しています。

POINT

当社は、PRTR*指定化学物質の排出量・移動量を調査しています。調査結果をもとに、代替物質への転換や排出抑制策を検討し、生産過程における指定化学物質の排出量および移動量低減に結びつけています。

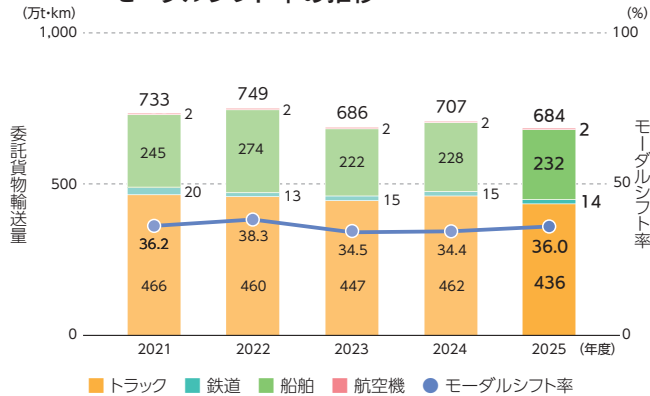
2025年度のPRTR指定化学物質の総使用量は3.1tと前年度より0.4t減少しました。排出量・移動量の合計については0.04t増加しました。

今後も代替物質への切り替えなど検討し、使用量の削減を図っていきます。

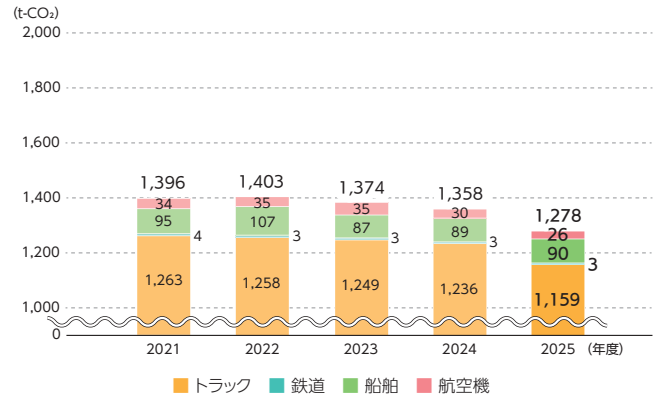
*PRTR(Pollutant Release and Transfer Register: 環境汚染物質排出・移動登録)… 環境汚染のおそれのある化学物質の環境(大気、水域、土壌)への排出量または廃棄物としての移動量を事業者自ら把握し、その結果を行政機関に報告・公表することにより、事業者の自主的な管理を促進し、環境保全上の支障を未然に防止することを目的とした仕組み。

環境関連データ

図表15 国内全体の委託貨物輸送量内訳とモーダルシフト率の推移



集計範囲:日本国内での物流部、営業本部、工場、リサイクルセンターの委託貨物輸送(製品、部品の配送、部材調達、廃棄物の排出、使用済み製品の回収)量

図表16 委託貨物輸送によるCO₂排出量の内訳

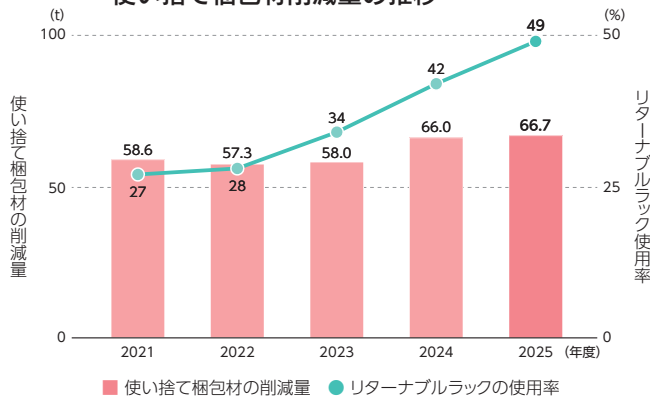
集計範囲:日本国内での物流部、営業本部、工場、リサイクルセンターの委託貨物輸送(商品、部品の配送、部材調達、廃棄物の排出、使用済み製品の回収)に伴うCO₂排出量

POINT

当社は、省エネ法による特定荷主に該当していませんが、製品輸送時の環境負荷を低減させるべく、委託輸送量の正確な把握とCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

2025年度も消耗品輸送についてトラックから船舶へのモーダルシフトに取り組みました。モーダルシフト率は36.0%でした。CO₂排出量は2024年度に比べ80t-CO₂減少しました。

図表17 リターナブルラック使用率と使い捨て梱包材削減量の推移



集計範囲:筑波出荷センターから国内向け(営業拠点、販売店、お客様)に出荷するデジタル印刷機および高速カラープリンターを対象としています。

POINT

製品の出荷にリターナブルラックを使用することで、段ボールや発泡スチロールなどの使い捨て梱包材の使用量を削減しています。

2025年度は、リターナブルラックの使用率が49%で、梱包材を66.7t削減しました。

図表18 環境教育実施内容と参加人数(2025年度)

研修(教育)の種類	回数(回)	延べ人数(人)	延べ時間(人・時間)
一般環境教育(Web学習)	1	44	13
一般環境教育	11	110	55
環境方針・EMPの確認教育	1	292	146
内部監査員教育	5	34	253
特定環境教育	10	65	18
事故・緊急時訓練	7	60	32
防災訓練	3	510	495
EMSレベルアップ教育・研修	4	60	47
外部セミナー(法規制動向…等)受講	1	1	13
安全・衛生向上教育	3	68	61
総計	46	1,244	1,134

集計範囲:日本国内の事業所で実施する教育・研修

※研修・教育のうち、環境に関わるものを抽出し集計しています。

POINT

社員一人ひとりの環境意識の向上と環境保全活動の実践を目的とした一般向けから、内部品質環境監査員教育やEMS外部資格教育・研修などISO等の専門教育まで、幅広いプログラムを整備して環境教育・研修を行っています。

環境会計

●集計の方法・考え方

- ・環境保全コストや経済効果の把握の仕方は、環境省の「環境会計ガイドライン(2005年版)」を参考にしています。ただし、コスト分類については、当社独自の分類に合わせて変えています。また、環境保全コストの費用額に減価償却費は含めていません。効果については、実質的效果(確実な根拠に基づいて算定される)といわれる収益と費用節減を計上しています。実質的效果以外の推定的効果は計上していません。
- ・環境配慮設計に関わる環境保全コストを表中に計上すべきですが、環境保全を目的とする部分と環境保全目的ではない部分を明確に区別できないため、研究開発費の総額として有価証券報告書に掲載しています。

●対象期間: 2025年度(2025年4月1日～2026年3月31日)

●集計範囲: 理想科学工業株式会社国内事業所(筑波事業所、霞ヶ浦事業所、宇部事業所、理想開発センター、本社部門および営業拠点)
なお、営業拠点については、「省資源・リサイクル」「EMS構築・運用管理」を集計対象としています。

図表19 2025年度の集計結果

(単位:千円)

活動の区分	分類	環境保全コスト			環境保全効果	
		環境保全活動	投資額	費用額	経済効果	内容
地球温暖化防止対策	・燃料消費削減 ・電力消費削減	・高効率パイラーへの更新、 モーターシフトの実施 ・省エネ機器の導入など		244	142	・製造、輸送時のCO ₂ 削減 ・電力使用量の削減 ・非化石証書の購入
省資源・リサイクルの推進	・使用済み製品の有効活用 ・廃棄物の有効活用 ・廃棄物の処理	・使用済み製品の回収・ リサイクル ・廃棄物の分別、再資源化		465,146	352,422	・リユースによるコストダウン ・再資源化率向上
環境コミュニケーション	・製品の環境情報提供 ・環境への取り組みに関する 情報提供	・環境ラベルの取得 ・環境データブックの発行		29,148		・エコマーク商品認定など ・環境データブックの発行、WEB 改訂など
緑地	・緑地の美化、維持	・緑地の美化、維持	980	6,018		・緑地の美化、維持
法規制遵守 (公害防止対策・環境汚染防止)	・違法活動(水質、大気など) ・法規制の動向把握	・排水の管理 ・排ガスの管理 ・設備の点検、保守 ・法規制の監視		30,934		・環境保全活動 ・国内外法規制動向の調査・把握
グリーン調達	・原材料、部品の環境情報の 収集および登録	・REACH他環境情報システム の運用		6,956		・環境情報の更新、維持管理
EMS構築・運用管理活動	・ISO	・ISO14001認証取得、維持 管理		7,394		・ISO14001認証更新、 維持管理
総計			980	545,840	352,564	

図表20 コスト(投資額+費用額)の推移

(単位:千円)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
地球温暖化防止対策	1,370	570	8,970	4,495	244
省資源・リサイクルの推進	291,048	260,595	267,548	479,034	465,146
環境コミュニケーション	11,971	14,139	17,454	25,392	29,148
緑地	2,350	3,616	3,520	3,846	6,998
法規制遵守	20,887	17,829	25,411	21,696	30,934
グリーン調達	7,524	6,633	6,667	6,749	6,956
EMS構築・運用管理活動	4,230	4,431	9,531	5,965	7,394

図表21 経済効果(収益+費用節減)の推移

(単位:千円)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
地球温暖化防止対策	150	154	146	143	142
省資源・リサイクルの推進	279,058	394,723	369,445	379,127	352,422

※他の環境コミュニケーションほか7項目は経済効果はなし

図表22 環境会計の推移(製品の環境配慮設計などの開発費用を除いた比較)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
コスト(投資額+費用額) (単位:千円)	339,379	308,179	339,101	547,176	546,819
経済効果(収益+費用節減) (単位:千円)	279,208	394,878	369,591	379,270	352,564
効果の割合 (単位:%)	82%	128%	109%	69%	64%

POINT

2025年度は2024年度と比較し、地球温暖化防止対策のコスト(投資額+費用額)は、4,251千円減少しました。
経済効果は昨年度と変更ありませんでした。
省資源・リサイクルの推進のコストは13,888千円の減少、経済効果は26,705千円の減少でした。
コスト(投資額+費用額)と経済効果(収益+費用節減)の割合は、64%でした。

主要事業所の環境データ（サイトデータ）

図表23

筑波事業所

集計範囲:筑波事業所内を対象としています。



事業所概要	所在地	茨城県稲敷郡阿見町福田 127-7(福田工業団地)	敷地面積	97,000m ²
	建物延床面積	29,326m ²	従業員数	257人(2026年3月末現在)
	操業開始	1981年(昭和56年)10月		
主な生産品目	高速カラープリンター「オルフィス」ならびに周辺機器およびインク 事務用デジタル印刷機「リソグラフ」の周辺機器			
特定施設の届出状況	大気汚染防止法のばい煙発生施設(ボイラー) 霞ヶ浦水質保全条例の特定施設:浄化槽 生活環境の保全等に関する条例の特定施設:油圧プレス、機械プレス、空気圧縮機、せん断機、丸のこ盤			
主な環境保全活動	・ISO14001認証継続 ・環境配慮設計活動 ・グリーン調達の実施 ・廃棄物排出量の削減と再資源化の推進 ・省エネによるCO ₂ 排出量削減			

環境関連データ

	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度比(%)
電力使用量	MWh	1,816	1,791	1,748	1,734	1,661	96
水使用量	m ³	7,543	8,893	8,459	8,585	7,833	91
上水	m ³	7,543	8,893	8,459	8,585	7,833	91
地下水	m ³	0	0	0	0	0	0
排水量	m ³	7,543	8,893	8,459	8,585	7,833	91
BOD年間排出量	kg	8.1	8.9	9.1	12.9	10.2	79 注1
窒素年間排出量	kg	72	74	85	63	68	108
燐年間排出量	kg	3.8	7.5	6.9	5.3	7.0	132 注1
廃棄物総排出量	t	345	362	350	364	354	97
埋立最終処分量	t	1.6	1.6	1.7	1.7	0.6	34
廃棄物再資源化率	%	99.5	99.6	99.5	99.5	99.8	100

※筑波事業所の排水は公共水域へ排出しています。

注1 基準値内で、ばらつきの範囲です。

図表24

霞ヶ浦事業所

集計範囲:リサイクルセンターを含めた霞ヶ浦事業所内を対象としています。



事業所概要	所在地	茨城県稲敷郡阿見町阿見 282-2	敷地面積	28,265m ²
	建物延床面積	16,821m ²	従業員数	50人(2026年3月末現在)
	操業開始	1965年(昭和40年)8月		
主な生産品目	事務用デジタル印刷機「リソグラフ」			
特定施設の届出状況	騒音・振動規制法の特定施設:空気圧縮機、シャーリングなどの工作機械			
主な環境保全活動	・ISO14001認証継続 ・使用済み印刷機本体のリサイクル活動 ・廃棄物排出量の削減と再資源化の推進 ・省エネによるCO ₂ 排出量削減			

環境関連データ

	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度比(%)
電力使用量	MWh	443	434	415	392	421	107
水使用量	m ³	900	820	791	769	797	104
上水	m ³	900	820	791	769	797	104
地下水	m ³	0	0	0	0	0	0
排水量	m ³	900	820	791	769	797	104
BOD年間排出量	kg	5	4	3	4	4	110
窒素年間排出量	kg	40	36	34	37	38	105
燐年間排出量	kg	4.3	3.5	3.2	3.1	3.4	111 注1
廃棄物総排出量	t	139	125	103	118	117	98
埋立最終処分量	t	0.3	0.1	0.1	0.2	0.2	100
廃棄物再資源化率	%	99.8	99.9	98.3	99.8	99.7	100

※霞ヶ浦事業所の排水は公共下水道へ排出しています。

注1 基準値内で、ばらつきの範囲です。

主要事業所の環境データ（サイトデータ）

図表25

宇部事業所

集計範囲:宇部事業所内を対象にしています。

事業所概要	所 在 地	山口県宇部市瀬戸原工業団地	敷 地 面 積	75,871m ²
			建物延床面積	15,598m ²
	操 業 開 始	1986年(昭和61年)6月	従 業 員 数	64人(2026年3月末現在)
主な生産品目	デジタル印刷機「リソグラフ」用インクならびにマスター			
特定施設の届出状況	該当施設はありません			



主な環境保全活動	・ISO14001認証継続(2023年9月更新)	・廃棄物排出量の削減と再資源化の推進
	・RoHS指令対応など環境配慮設計活動	・省エネによるCO ₂ 排出量削減
	・グリーン購入の推進	・使用済みインクボトルのリサイクル

環境関連データ

	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度比(%)
電力使用量	MWh	1,797	1,723	1,660	1,723	1,671	97
水使用量	m ³	4,659	4,433	4,495	3,574	3,717	104
上水	m ³	2,341	2,288	2,733	1,825	2,015	110
地下水	m ³	2,318	2,145	1,762	1,749	1,702	97
排水量	m ³	2,341	2,288	2,733	1,825	2,015	110
BOD年間排出量	kg	33	13	11	11	13	120 注2
廃棄物総排出量	t	172	182	164	134	123	91
埋立最終処分量	t	0.1	0.1	19.0 注1	4.2	0.2	5
廃棄物再資源化率	%	99.4	99.5	87.8	96.1	98.3	102.2

※宇部事業所の排水は公共水域に排出しています。

注1 2023年度に設備の除却を行ったためです。

注2 基準値内で、ばらつきの範囲です。

図表26

理想開発センター

集計範囲:理想開発センター内を対象にしています。

事業所概要	所在地	茨城県つくば市 学園南2丁目8番1	敷地面積	17,521m ²
	建物延床面積	15,197m ²	操業開始	2013年(平成25年)6月
特定施設の届出状況	水質汚濁防止法・下水道法に係る特定施設:ドラフトチャンバー1台、流し台5台、洗濯機1台 騒音規制法に係る特定施設:送風機4台、液圧プレス3台、せん断機2台 振動規制法に係る特定施設:液圧プレス3台、せん断機2台 ばい煙発生施設として:非常用発電機1台			



主な環境保全活動	・ISO14001認証継続	・環境配慮設計活動
	・省エネによるCO ₂ 排出量削減	・廃棄物排出量の削減と再資源化の推進
	・緑地化活動	

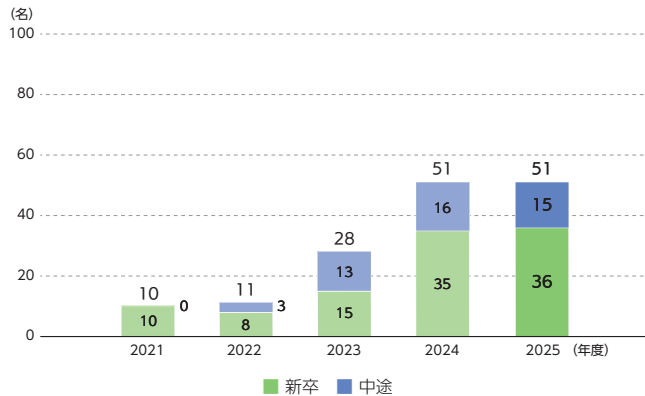
環境関連データ

	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	前年度比(%)
電力使用量	MWh	2,130	2,061	2,046	2,071	2,096	101
水使用量	m ³	5,967	6,355	6,547	7,079	6,052	85
上水	m ³	5,967	6,355	6,547	7,079	6,052	85
地下水	m ³	0	0	0	0	0	0
排水量	m ³	5,967	6,355	6,547	7,079	6,052	85
BOD年間排出量	kg	269	107	244	95	101	106
廃棄物総排出量	t	120	99	78	120	98	82
埋立最終処分量	t	0.8	0.8	0.8	0.9	0.9	94
廃棄物再資源化率	%	98.8	98.8	98.1	99.1	98.7	100

※理想開発センターの排水は公共下水道に排出しています。

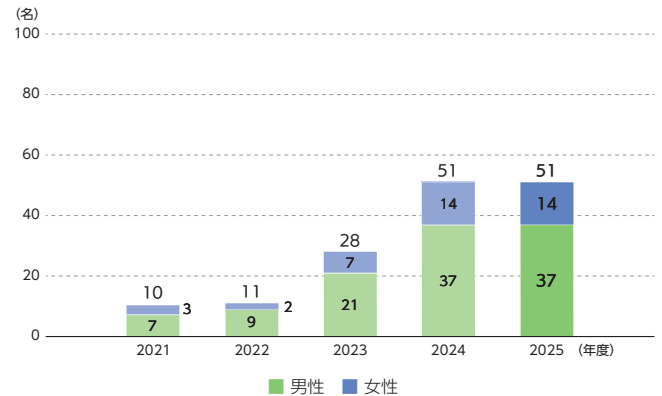
社会関連データ

図表27 採用実績(国内)(新卒／中途)



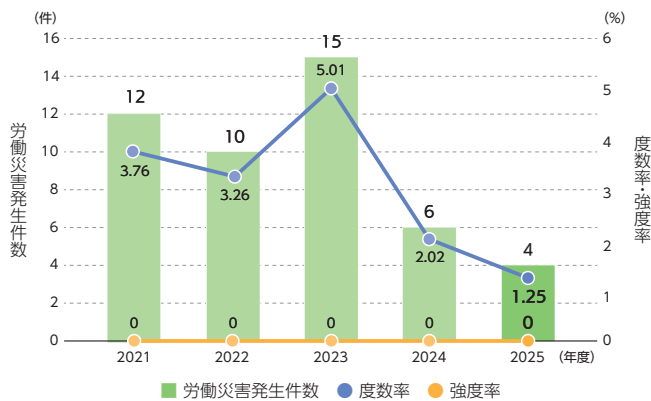
集計範囲:単体(国内)

図表28 採用実績(国内)(男性／女性)



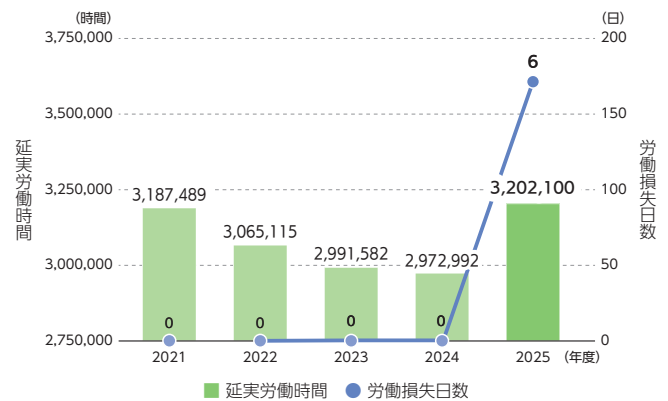
集計範囲:単体(国内)

図表29 労働災害発生件数および度数率・強度率



集計範囲:単体(国内)

図表30 延実労働時間と労働損失日数



集計範囲:単体(国内)

POINT

労働安全衛生

各生産事業所では、「安全衛生委員会」を設け、職場環境整備、不安全箇所の発見と是正、「ヒヤリハットの活動」などを行い、事故・災害防止に努めています。また、社内イントラネットに「安全衛生」ページを設け、社員の安全意識の啓発・教育を行っています。2025年度の国内の労働災害発生件数は4件でした。2024年度から2件減少しました。労働災害による労働損失日数は6日で2024年度から6日増加しました。

社員の健康増進

当社は、健康診断の実施やメンタルヘルスへの配慮などを通じて社員の健康面に配慮しています。一般健康診断、生活習慣病検診、人間ドックを実施して社員の健康状態を確認するとともに、必要に応じて生活習慣や健康増進に関する指導を行っています。また、身体の健康だけではなく心の健康を保つため、心の健康調査の実施や相談窓口を設置しています。

理想科学工業株式会社

本社／〒108-8385 東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル

【お問い合わせ先】 環境活動推進部

Tel. 03-5441-6778

E-mail: info@riso.co.jp URL: <https://www.riso.co.jp/>